

【基本方針】

団体生活の枠にとらわれず、家庭生活により近い施設生活の提供を行う

【年間目標】

- ① ご入居者のご家族との思い出作り
- ② 自立支援に向けた取り組み
- ③ 言葉使い、礼儀の徹底
- ④ 職員の知識・技術・意識の向上
- ⑤ サービスの質の向上
- ⑥ ご入居者・ご家族に寄り添った看取り介護をおこなう
- ⑦ 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を取り入れた業務改善
- ⑧ 短期入所と合わせて 99.5%以上の稼働を目指す

【実践報告】

① ご入居者のご家族との思い出作り

- ・例年多くのご家族が参加頂ける納涼祭は今年度も多くの参加を頂いた。年間の各種行事の中で、敬老祝賀会や初詣はご家族に参加頂けたが、外食レクリエーションや毎月の施設内で開催する行事について積極的な声掛けができなかったため、施設内に開催の案内を貼る等、工夫することとなった。
- ・ご入居者のお孫様による歌唱ショーを開催し、法人内のご利用者に喜んで頂けたことは良かった。
- ・ご入居者やご家族が喜んで頂けるよう話を進めたが、外出の支援に留まった。もっと細かな配慮ができるように職員間で検討している。

② 立支援に向けた取り組み

- ・外部研修への参加は見送り、施設内で充実した支援が継続できるように進めた。
 1. 日中オムツ0に向けた取り組み
 2. 水分量1日 1500cc以上の摂取（※水分制限がかかっている方は除く）
 3. 下剤の中止
 4. 運動（歩行）
 5. 常食化
- ・食事・水分など様々に工夫し、ご入居者に必要なことを常に考え取り組みを行った。水分摂取や排便・運動の必要性を理解しながら処遇を考えることができたが、終末まで施設での生活を望む方も増えたこと、オムツ0の定義が以前より厳しい内容となり、はっきり示されたことにより達成するには困難となった。

③ 言葉遣い、礼儀の徹底

- ・意識はしているものの、確実にはできていなかった。
次年度には自然にできることを目指していく。

④ 職員の知識・技術・意識の向上

- ・施設内外の勉強会・研修会に参加し、知識・技術・意識の向上に努めた。
- ・必要な研修内容の他、各月テーマ設定をおこない、職員自らが講師となり寮母会議の時間に勉強会として取り組んだ結果、職員の自主性が見られるようになった。
- ・申し送られた内容の介護はできていたが、職員個人がご利用者の状態を理解し、適切な支援方法を考えながら職務にあたることは足りなかった。

⑤ サービスの質の向上

- ・身体拘束について

27年度末には3名の身体拘束対応の方がいた結果となった。体動が激しく解除の見込みがない方、一時的なベッド4本柵の方、ほぼ解除に向かっている方がいる。引き続き解除に向けた話し合いをおこなっていく。

- ・事故対策について

毎月の寮母会でヒヤリハット・事故報告書の事例を検討し、センサーマットが必要かを判断するため、統計を用いてデータどりをする等工夫を行った。

- ・感染症発生状況

年度末の3月27日から数日で12名のご入居者がインフルエンザを発症した。1名は別の疾患で入院後インフルエンザの感染が判明した。職員の予防薬としてタミフルを用いた。

嘔吐するご利用者はいたが、ノロウイルス陽性反応はなく、早めに対処したことと隔離対応により感染拡大には至っていない。

- ・チームワークの構築

ご入居者の適切な処遇を常に考え、お互いにより良い介護を実践しているものの、チームケアに徹することができなかったことが一時的に起きてしまった。職員のモチベーションがらないよう声掛け、話し合いをおこなった。

- ・ご家族との太いパイプ作り

担当者会議を確実にを行いご家族とのコミュニケーション作りに努めた。年1回になつてしまつたが家族会を開催することができた。

⑤ 短期入所と合わせて99.5%以上の稼働を目指す

- ・今年度の年累計→101.0%（ロングのみ年累計95.0%）
目標の稼働を達成することができた。